

V. 生涯を通じた女性の健康の推進

(1) 目標

実現したい人物像	女性特有の健康課題を理解し、自分らしくしなやかに生涯をおくる女性
大目標	ライフステージに合わせ、女性の健康づくりを総合的に支援します。
小目標	<ul style="list-style-type: none"> ① 20・30歳代の女性のやせを減らし、適正体重を目指します。 ② 妊娠、出産、産後の健康不安を軽減し、この地域で子育てをしながら住み続けていきたい人を増やします。 ③ 年代に応じた対策をとることで、骨粗しょう症を減らします。 ④ 女性特有のがんによる死亡率を減らします（P.34「I. がん予防・がん対策の推進」参照）。

(2) 数値目標

指 標	現状値／出典		8年度 (中間目標値)	11年度 (計画最終年度)
20・30歳代女性の「やせ」 (BMI18.5未満)の割合	18.6%	令和4年 健康に関する意識調査	18.0%以下	17.0%以下
「この地域で子育てをして いきたい」と答えた保護者 の割合	92.5%	3歳児健診 アンケート	93.0%	94.0%
40～70歳女性の骨粗しょう 症検診受診率 ^(*)	11.0%	令和4年度 事業実績	13.0%	14.0%

(*) 豊島健康診査センターで骨密度検査を受診した後、実施医療機関で総合判定を受けた人の割合

(3) 現状と課題

① 若年女性の「やせ」の状況

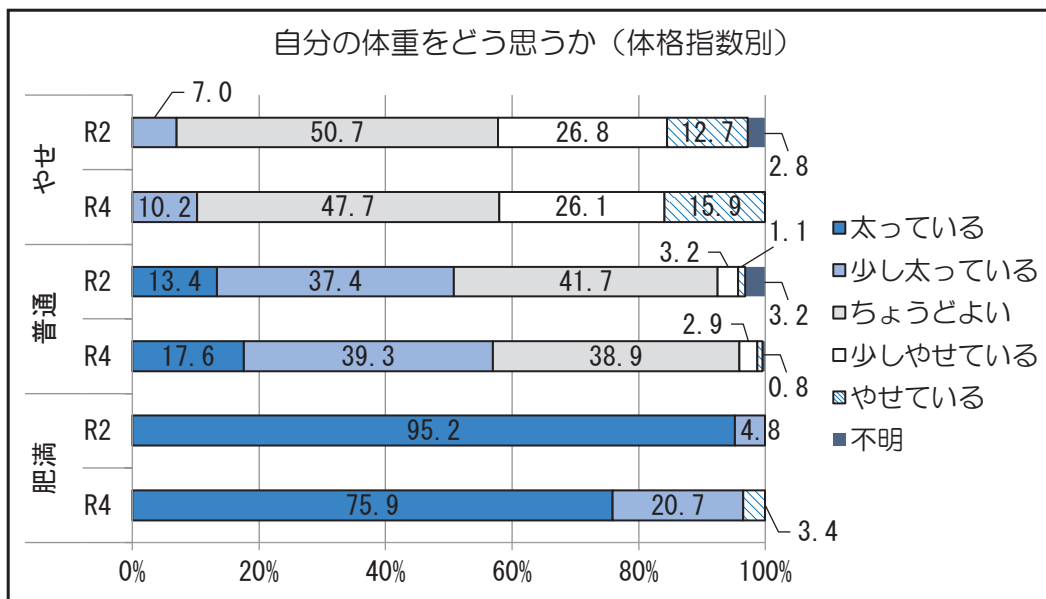
i) 年代別体格指数 (BMI)

豊島区健康に関する意識調査（令和4年）によると、「やせ（BMI18.5未満）」の割合は、20歳代で24.5%、30歳代で15.9%となっており、平成29年と比べると、20歳代が2倍に増加し、30歳代も増加している状況です。（グラフはP.19、P.20参照）

ii) 「やせ」に対する意識

女性の骨太健診（20～39歳が対象）のアンケートより、「自己の体格を正しく認識しているか」を体格別に比較したところ、令和4年の状況では、やせ（88名）のうち、今の体重を「やせている」と正しく認識できている人は15.9%、「太っている」「少し太っている」「ちょうどよい」と認識する人は57.9%でした。

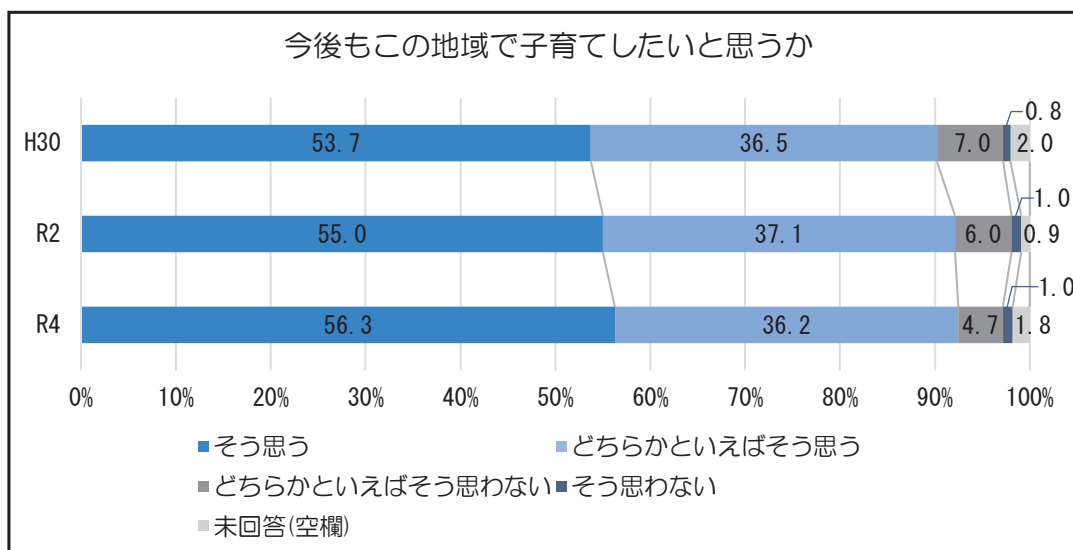
令和4年と令和2年と比較すると、「やせている」と正しく認識できている人の割合は、わずかに増加しています。「太っている」「少し太っている」「ちょうどよい」と誤った認識を持っている人の割合は、横ばいで変化が見られませんでした。



「豊島区女性の骨太健診アンケート」より

若い女性のやせは、多くの健康問題のリスクを高めることが指摘されています。i)とii)の結果から、若い女性が、やせや適正体重を正しく認識でき、適正体重が生涯の健康づくりにつながることを理解してもらえるよう支援します。特に妊娠期においては、母体の栄養が十分でないと、早産や赤ちゃんが低体重（2,500g未満）で生まれるなどのリスクが高まります。妊娠期における食事や栄養が大事であると啓発していくことが非常に重要です。

② 「この地域で子育てをしていきたい」と思う保護者の割合



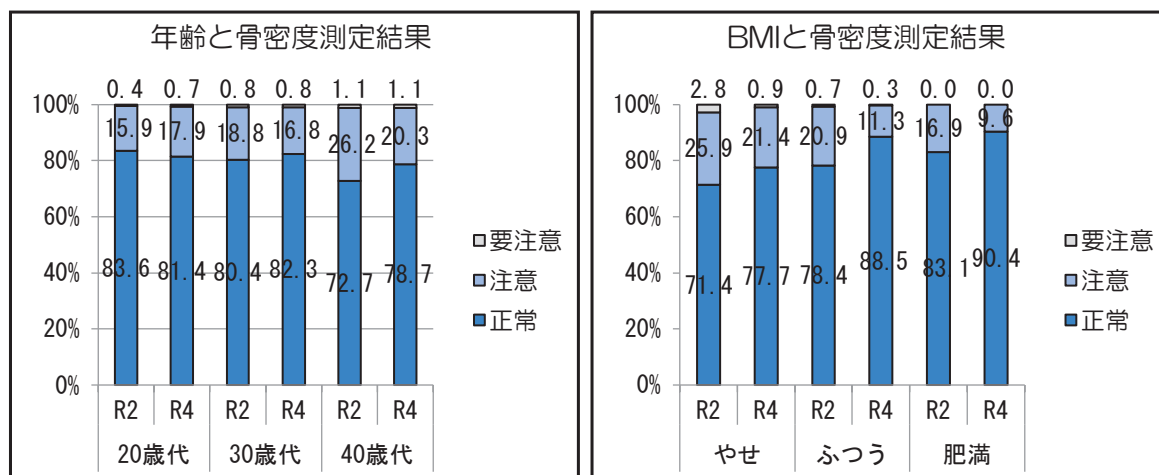
「3歳児健診アンケート結果」より

3歳児健診のアンケート（すこやか親子21の質問項目）において、「この地域で今後も子育てをしていきたいですか」の設問に対して、92.5%の保護者が「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えています。

③ 骨粗しょう症の状況

i) 乳幼児健診に来所した母親の骨密度測定の結果

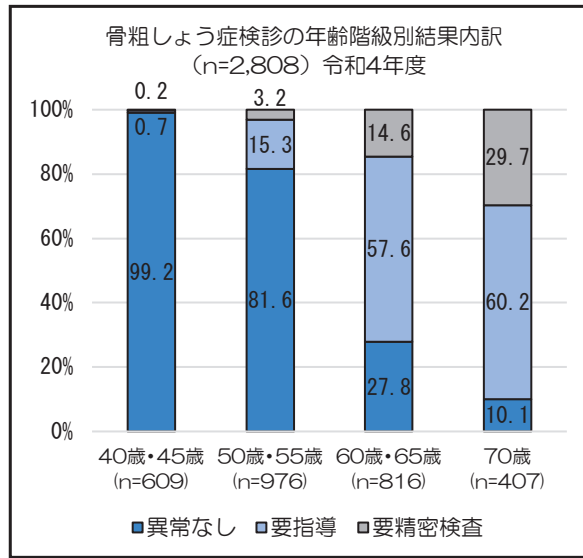
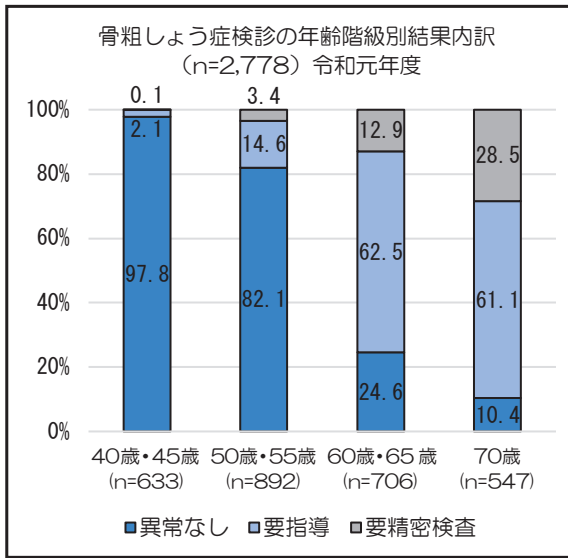
3・4か月児健診、3歳児健診時に実施した20～40歳代の母親の骨密度検査（定量的超音波骨密度測定）の結果によると、約2割が「注意」「要注意」という結果でした。年齢別では20歳代・30歳代よりも40歳代の「注意」「要注意」の割合がわずかに高くなっており、BMI別にみると、「やせ」「ふつう」「肥満」の順に「注意」「要注意」の割合が高い結果でした。（*BMIが18.5未満の場合、骨粗しょう症のリスク要因となります。）また、「注意」「要注意」の割合は、年齢による差よりもBMIによる差が大きいという結果でした。



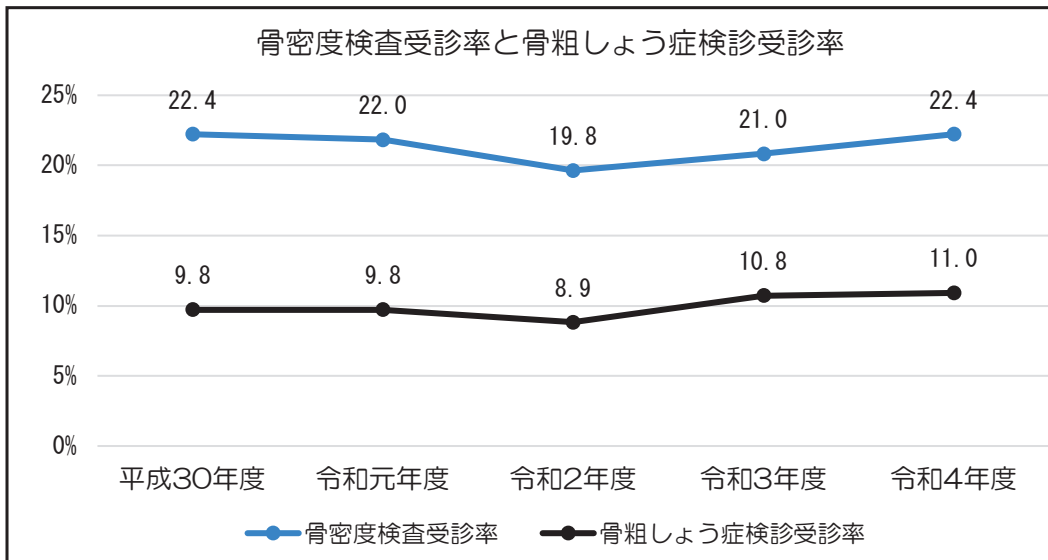
「豊島区乳幼児健診事業実績」より

ii) 40歳以上の骨粗しょう症検診の状況

40～70歳までの区民に、5歳刻みで実施した骨密度検査（DEXA骨塩定量装置による測定）によると、60歳代と70歳で「要指導」の割合が、40・50歳代に比べ急激に高くなり50%を超えています。豊島区では、豊島健康診査センターでの骨密度検査の受診率（骨密度検査受診率）は20%前後で推移し、骨密度検査の後、実施医療機関で総合判定を受けた人の割合（骨粗しょう症検診受診率）は、10%前後で推移しています。特にホルモンバランスの変化が生じる年代に対し検診の受診を勧奨し、適切な生活指導や医療に結びつけるための支援の強化が必要です。



「豊島区骨粗しょう症検診事業実績」より



「豊島区骨粗しょう症検診事業実績」より

(4) 目標達成に向けた取り組み

重点 ① 女性のための健康相談～ライフプラン形成のための健康相談事業～（健康推進課）

妊娠・出産に関する悩みやホルモンバランスの変化など、女性の生涯を通じた健康課題について、多職種（医師、助産師、保健師、栄養士）による個別相談を実施し、女性のライフプラン形成を支援します。

事業名（担当課）	事業内容
女性のための健康相談（健康推進課）	在住・在勤・在学の40歳代までの女性を対象とした、産婦人科医、助産師、保健師、栄養士による総合相談。

② 若い女性の健康づくりの支援（健康推進課／長崎健康相談所）

若い世代からの骨粗しょう症予防のために、乳幼児健診時の母親の骨密度測定や女性の骨太健診を実施し、間違った認識や方法でダイエットを行なう「やせ」が及ぼす健康リスクや丈夫な骨づくりの大切さを周知します。また、健診を通じて、食生活や生活習慣を見直すことや健康づくりのきっかけになることを支援します。

事業名（担当課）	事業内容
乳幼児健診時における母親の骨密度測定と食事指導（健康推進課／長崎健康相談所）	乳幼児健診に同行する母親の骨密度を測定（超音波）し、結果をもとに骨粗しょう症予防に向けた食事指導を実施。

③ 妊産婦の健康支援（健康推進課／長崎健康相談所）

母子健康手帳の交付、妊婦健康診査、母親学級、パパママ準備教室等の母子保健事業の実施により、妊産婦の健康支援を行ないます。また、ゆりかご面接（妊婦面接）、妊産婦訪問、としま育児サポーター（助産師）の訪問により、妊娠から出産・子育て期の切れ目のない相談支援を行ないます。

④ 骨粗しょう症検診の医療機関受診率の向上（地域保健課）

骨粗しょう症検診の受診勧奨を推進するとともに、特に50歳代以上の骨密度検査受診者に対し、医療機関での事後フォローまでを受診することで、骨粗しょう症予防につながる生活指導が受けられることや必要に応じた医療へつなげられることを周知し、医療機関受診率の向上を図ります。

⑤ **情報提供体制の充実**（地域保健課／健康推進課／長崎健康相談所）

妊娠・出産を含む女性の健康づくりや栄養摂取について、各種健診時やホームページ、SNSなど、アクセスしやすいメディアおよび媒体を活用して情報発信を行ないます。